

平成28年10月2日
今週のベストショット



青松園A 三友クラブ 対 雁ノ巣ライナーズ戦

鍛え上げられた肉体で豪快な左越え3ランを放つライナーズ四番宇野選手。

写真：三苦フレンズ 肥喜里一征

青松園B 終盤の猛攻でパイレーツがジャガーズを下す

新町パイレーツ（3勝7敗） 3 1 0 1 0 0 6 1 1 牟田○、吉田一大濱

塩浜ジャガーズ（5勝4敗1分） 0 2 0 0 0 0 0 2 内田●、荒木一橋村

3BH：足立2、牟田、佐々木、白岩（新町パ）、内田、野中（塩浜ジ） 2BH：牟田（新町パ）橋村（塩浜ジ）

盗塁：石内（塩浜ジ）

前日に降った雨の影響でグラウンドコンディションが悪い中行われたこの試合は初回から動いた。一回表パイレーツ一番足立選手が三塁打を放つと、二番八坂選手がきっちり外野フライを打ち幸先良く先制。さらに七番佐々木選手のタイムリーが飛び出し初回から3点を取る。ジャガーズはその裏、三番内田選手が三塁打を放ちチャンスを作るもこの回0点に終わる。二回表、九番白岩選手の三塁打でチャンスを作ると一番足立選手のセカンドゴロの間に1点追加する。その裏、ジャガーズは六番の野中選手の三塁打でチャンスを作ると、続く打者のピッチャーゴロの間に1点、さらに相手のエラーの間に1点を返し4対2とする。迎えた四回表、パイレーツは七番佐々木選手の三塁打の後、一番足立選手のタイムリーで1点を追加。その後、両チーム0行進が続いて迎えた七回表、パイレーツは五回からリリーフした荒木投手を攻め2点を追加。さらに満塁のチャンスで一番足立選手の適時三塁打が飛び出し一気に試合を決めた。勝利したパイレーツは3安打5打点の足立選手を中心に攻撃力の高さを見せつけた。敗れたジャガーズもバント警戒で前に三塁手が出ている隙に盗塁を仕掛けるなど積極的な攻撃を垣間見ることができた。リーグ戦は残り少ないが両チームともに残りの試合で活躍できると思う。ちなみにこの試合は両チーム合わせて7本の三塁打が出る珍しい試合になった。（記事・写真：ブルーマリーナズ 井手翔一郎）



ジャガーズ先発の内田投手。



パイレーツ先発の牟田投手。



悪送球もホームを死守するジャガーズ橋村捕手。



七回表、タイムリーを放つパイレーツ足立選手。

青松園A 雁ノ巣ライナース、三回四回で一挙9得点を奪い快勝!

三友クラブ (5勝5敗) 0002 2 足達●ー谷崎

雁ノ巣ライナース(5勝4敗2分)0045 9 有馬○ー明瀬(航)

HR: 宇野(雁ノ巣) 2HB: 中内(三友ク)、明瀬(旭)、中口、宇野、永吉(雁ノ巣)

両チームともなかなか点が入らない展開の中、試合が動いたのは三回表。三友クラブ先頭の広瀬選手がレフトへのヒットで出塁すると、続く山本選手のバントや四球で無死満塁のビックチャンス到来。ここで、外野への犠牲フライが上がり1点を先取と思われたが、外野からの好返球によりタッチアウト。惜しくも三友クラブは、この回無得点に終わりチャンスをものにできなかった。ピンチの後にチャンスとはよく耳にするが、雁ノ巣ライナースは三回裏、先頭の池内選手がヒットで出塁すると、続く三番中口選手の2点適時二塁打等で、この回一挙4点を先取した。続く四回裏にも先頭の永吉選手がライト線ぎりぎりにしぶとく打球を落とし、脚力を活かして二塁打で勢いをつける。これに後続も続き、四番宇野選手の特大大ホームランも出て一挙5点を奪い試合を決めた。試合の序盤は、今日の天候と同様に湿った試合運びだったが、三回表のピンチを凌いだ雁ノ巣ライナースに突如流れが傾いた展開となり、チャンスを生かしきれなかった三友クラブとの明暗がはっきりした試合だった。(記事・写真:三苦フレンズ 肥喜里一征)



三友クラブ初安打の中内選手。



三回表レフト前ヒットを放つ広瀬選手。



見事にバントで出塁の三友クラブ山本選手。



三回裏中内選手、WP間に4点目を得点。



四回裏、右線に打球を落とし二塁を奪う永吉選手。



四回裏、センターへはじき返す有馬選手。



有馬選手のタイムリーで生還する永吉選手。



落ち着いて守備もこなす足達投手。



四回裏、レフトへ特大ホームランを放つ宇野選手。



二塁打にスリーランと大活躍となった宇野選手。

奈多グラウンド ウインズの追い上げ、一步届かず！

新町ウインズ (6勝4敗) 100001 2 藤田●ー今林(孝)

三苫ホーネッツ (9勝2敗) 302000 5 矢野○ー広木

HR: 正内(三苫ホ) 3BH: 矢野(三苫ホ) 2BH: 広木(三苫ホ) 盗塁: 桐島(新町ウ)

一回表新町ウインズは、四球で出塁した桐島選手を三塁に置き、三番今林(孝)選手が左前適時打で1点を先制する。その裏ホーネッツは、一番正内選手の先頭打者HRで早くも同点に追いつくと、死球で出塁した二番稲葉選手を三塁に置き、三番矢野選手の右三塁打で1点追加。続く四番広木選手の二塁ゴロの間に三塁ランナー矢野選手が生還してこの回3点。さらに三回裏ホーネッツは、安打で出塁した一番正内選手を二塁に置き、三番矢野選手の中前適時打で走者生還し1点追加。さらに四番広木選手の右中間二塁打でこの回2点を奪う。一方ウインズは初回以降ホーネッツ矢野投手に散発4安打、最終六回に死球で出塁した藤田選手がホーネッツ三浦三塁手の二塁悪送球による生還の1点のみに終わった。ホーネッツは初回藤田投手の制球が定まらない立ち上がり確実に得点を取ったところに勝因となった様に思われる。(記事・写真: 奈多サンデーズ 田中俊弘)



ホーネッツ矢野投手。



ウインズ藤田投手。



豪快な藤田選手の打撃フォーム。



ホーネッツ先頭打者本塁打の正内選手。



フライを取るホーネッツ稲葉選手。



フライを取るウインズ松岡一塁手。

雁レク少年硬式球場 実延彰洋選手のサヨナラヒットで何とか意地を見せたフェニックス！！

レッドサンデーズ（1勝7敗2分）10003 4 塚本●ー荒口

奈多フェニックス（7勝1敗2分）02102× 5 松本、今林（勇）○ー実延（新）

2BH：実延彰洋（奈多フ）盗塁：川原（レッド）能丸（奈多フ）

試合開始前に急遽、グラウンドのコンディション不良により雁レク少年硬式球場で始まったこの試合。一回表から、動きを見せる。先頭打者を三振に打ち取り勢いに乗るかと思われた奈多フェニックス松本投手だったが、レッドサンデーズ二番川原選手が相手エラーを誘い出塁。すかさず盗塁を決め三番神田選手のファーストゴロの間に三塁へ。二死ラン三塁のチャンスで四番八島選手がまたもや相手のエラーを誘いレッドがノーヒットで1点先制。対するレッド塚本投手はヒットを打たれるも要所を締め、このまま淡々と試合が進みそうな気配だったが、そこは上位に名を連ねるフェニックス。二～四回を松本投手が三者凡退で流れを引き寄せる。すると、二回裏フェニックスの攻撃で今林選手が四球を選ぶと続く実延彰洋選手の二塁打で一死二三塁のチャンスで迎える太田選手のレフト前ヒットで逆転に成功。続く三回裏も連打で1点を追加したフェニックスは3-1でリードする。そのまま五回表レッドの攻撃。好投していた松本投手から変わった今林勇太投手を攻め立てる。七～九番の連打から始まり3点を追加し逆転に成功する。五回裏、フェニックスはなんとか点が欲しい場面で、先頭の今林勇太選手のピッチャーゴロを塚本投手が一塁へ悪送球し無死三塁のチャンス！！続く四番実延新伍選手はショートフライで進塁できず、五番能丸選手が四球を選び、続く今林英二選手が打った球は痛烈な一二塁間へのゴロ。良く捕ったレッド八島二塁手も同点は許すまいとホームへ送球し三本間の狭殺プレーとなるが、レッド内野陣のミスでフェニックスが同点に追いつく。一死二三塁で迎えた実延彰洋選手がセンター前にサヨナラヒットを放ちゲームセット！！何とか勝利を手にしたフェニックス。五回表の誤算でヒヤヒヤしたことだろう。

（記事：ソルトベイスターズ 中村健一、写真：酒井哲朗）



四回まで無安打1失点と好投した松本投手。



負けじと粘りのレッドサンデーズ塚本選手。



相手エラーを誘いほっとする川原（陸）選手。



先制打を打つレッド四番八島選手。



サヨナラヒットで喜ぶフェニックス実延彰洋選手と西藤選手。

第19週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

10月2日は4試合が行われました。

青松園Bの和白新町パイレーツ対塩浜ジャガーズ戦は、初回から5安打を集めパイレーツが先制すると、得点を重ね、最終七回にも5安打で6点を奪い11-2でパイレーツの勝利。パイレーツは13安打4四球3犠打とつながりある打線が爆発した。

青松園Aの三友クラブ対雁ノ巣ライナーズ戦は、三回表の三友クラブ先制のチャンスをライナーズ永吉左翼手がホームで刺し波に乗ると、足を絡めた速攻で4点、四回裏にも永吉選手が先頭で塁に出ると、四番宇野選手のHR等で5点を奪い試合を決めた。投げては有馬投手が三友打線を2安打2失点に抑え2-9でライナーズ勝利。

奈多グラウンドの新町ウインズ対三苦ホーネッツ戦は、先制を許したホーネッツが一回裏、正内選手の先頭打者HRと三番矢野選手の三塁打等で早くも逆転すると、三回裏にも一番正内選手から始まり矢野、広木選手の連続タイムリーで2点を取り2-5で逆転勝利。6イニング中4イニング先頭打者が安打で出塁しているホーネッツは、たとえば点に結びつかなくてもリズムよく攻撃が出来ている。

雁レク少年球場のレッドサンデーズ対奈多フェニックス戦は、二回裏に逆転したフェニックスペースで試合が進み、迎えた五回表、それまで無安打1失点ピッチングの先発松本投手から今林勇太投手にスイッチしたのが大誤算。レッド七~九番に連打を浴びると、コリジョンルールで本塁の判定が覆るなどして一挙3失点で逆転を許す。その裏レッドは勝ちを焦ったのか内野陣のエラーで同点に追いつかれると、フェニックス主将の実延彰洋選手のショート横を抜けるサヨナラ打で4-5とフェニックスが辛くも勝利し、優勝戦線に踏み止まった。

プロ野球もCS（クライマックスシリーズ）が始まり、短期決戦の様相を呈してきました。

WSLも終盤となり、どのチームも一戦も落とせない真剣勝負が繰り広げられています。

各監督は勝利に向かって、しっかり考えた戦略を以てサインを出すでしょうし、選手は臨機応変に対処することが大事です。

ここまで来ると、個人を捨ててどこまでチームのためになれるか？

自己犠牲の精神も大事になってきますね。